

木もれ日通信

Komorebi Tushin

7月6日に降る雨を
洗車雨（せんしゃう）
彦星が織姫に会うために
牛車を洗う水の雨
年に一度しか会えない二人の
切なく悲しい涙雨

花のアルバム

アーバムの
37ページ

バス

第37号

平成21年7月
つきだて花工房発
季刊誌

〒960-0903 福島県伊達市月館町下手渡字寺窪7
つきだて花工房 TEL024(573)3888 FAX024(573)3887
つきだて交流館もりもり TEL024(571)1777 FAX024(571)1787
休館日/毎月第1、3、5火曜日（休館日の前日は17時まで営業）
つきだて花工房ホームページ <http://t-hanakobo.jp/>
◎つきだて花工房は未もれ日のようなぬくもりと
やさしさを持ち続けるみなさまの公共施設を目指します。

バスの花（花言葉 雄弁、清らかな心）
雨露がきれい。お昼前だったが、つぼみ始めたようす



バスの葉の不思議
…ロータス効果
…濡れることなく、
水滴となって落ちる
バスの英名=ロータス

バスはバス科の多年生水生植物。蜂の巣状の花托に果実が実ることからその名が付けられました。食用とされるレンコンは穴があるので「先が見通せる」と言われ緑起物としてお節料理や慶事に欠かせない野菜です。収穫は、秋から春の新芽が出るまで統きます。厳しい寒さの中、ハス田に入り泥の中から太ったレンコンを掘り出す作業は大変な重労働。心して、いただからなればなりません。

また、古くから万病の薬とも言われており、根茎の節から葉、花、種子にいたるまで、捨てるところが無く薬効があります。鼻づまり、鼻血予防、むくみ、咳止め、風邪、

星祭とも呼ばれる七夕は五節句のひとつ。天の川をはさんで輝く二つの星が再会を許されたこの日は小暑にもあたり、いよいよ梅雨明けも間近、今年も暑い夏がやってきます。七十二候には、蓮始開（はすはじめてひらく）とあり、朝露をたたえて咲く大輪のバスが、夏の香りを風に乗せて運びます。

バスの花はレンゲ（蓮花）と呼ばれ、七月の誕生花。早朝に咲いて夕方にはつぼむというサイクルを三日間繰り返し、四日目には花びらを落すという、はかなくも神秘に満ちた花です。

バスは、この木もれ日通信が発行されてから六月が夏というように季節が移っていきます。去年の暦を見てみると、新暦の一月七日が旧一月一日、五月五日が旧四月一日、八月一日が旧七月一日、十月二十九日が旧十月一日と、それぞれの季節が始まっています。そして今

旧暦のはなし

二日酔い、口内炎など、民間療法にも大活躍する植物です。

わらべ歌に「ひらいた、ひらいた、

何の花がひらいた、レンゲの花が

ひらいた、ひらいたと思つたらい

つのまにかつぽんだ』とあります

が、ここで歌われる「レンゲ」がレ

ンゲ草（ゲンゲ）ではなく蓮の花であることも、念のため加えてお

きましょう。

年は、この木もれ日通信が発行される六月下旬には「閏（うるう）五月」です。暦を追つてみると、秋の始まる旧七月一日は八月二十日。去年よりも二十日も遅く秋を迎えることになります。前回書いたように、旧暦の世界では暦と季節が連動しているとすれば、今年は夏が長いのかも…？ ちなみに、春の始まる旧一月一日は新暦の一月二十六日でいつもより早い春を迎えたことになります。「今は季節が進むのが早い」ということをいろいろな方から聞きました。まさに旧暦と季節が連動していることを証明しているといえそうです。そして旧暦を特徴づけている「閏月（うるうづき）」とは、いったい何を表しているのでしょうか？

雨あがりの青空

静かに降る雨が止むと
雨宿りをしていた
小鳥たちのさえずりが
遠くから聞こえ始めます
雨に洗われた木々の葉は
さらさらと輝きを増し
梅雨の晴れ間に
青い空が広がりました
出かけませんか
ひらくふるさとへ



つきだて花工房 花畠から阿武隈の山並みを望む



伊達地方郵政退職者会のみなさま

お帰りには、直売所で買い物籠を持ち、お孫さんのおやつや、夕飯の材料を求める姿。家族を想う気持ちが、ほのぼのと伝わる光景でした。
秋に、またお待ちしています。

てチエックイン。表彰式では、初めてブルグラン運動場で月例運営接する気持ちはあります。

恒春と親工房は、お迎え月例親会です。多くの里親工房とお客様など、家族じつのてつにあります。

それぞれの時代

昭和39年度卒
小島中学校同級会のみなさま
(昭和24年、25年生まれ)



還暦、おめでとうございます。バスから降りて受付を待つ際、皆さんが列を乱すことなく、1列に並んだ光景が何より印象的でした。学生時代の一場面にタイムスリップした感じです。「人数が少ないからまとまりがある」とおっしゃっていましたが、素朴なやしさが伝わってくる同級会に、ひとりひとりの思いやりを感じました。記念に配られた赤いタオルを肩に掛け、60年という節目を刻む一枚の写真です。



キッズスマイル

高木智穂くん(中国・浙江省杭州市)

(智君、元気ですか？ 今度はいつ会えるかな。楽しみに待ってます。勉強も頑張って！ じゃ、またね)

〈ノラ学校〉

今年度のノラ学校は4組の新入生を迎えました。鍬の使い方から種まき、苗植など、野菜を育てる基礎的な技術の一つ一つを、目を輝かせながら実践中です。



〈野の薬探索・春編〉

梁川町で漢方薬局を営む貝津好孝さんを講師に開催した「野の薬探索・春編」。芽吹きの里山を歩いて摘み草を楽しみながら、身近にある野草の薬効を学びました。秋編は10月に開催します。



